

2008 年度

科目名 日本文学史Ⅲ	対象学科・学年 文学部日文2回生	担当者 橋本 直紀
授業テーマ 日本中世文学史		
授業の概要と目標 中世文学の流れを中心に概説する。つとめて、これまで目にしなかったであろう作品や人物を多くとりあげたい。また映像資料（ビデオ）も折々使用する予定である。		
評価方法 学年末テストによる。授業中に作成する課題、小レポートを加味。		
テキスト 日本古典読本	著者 秋山 虔 他	出版社 筑摩書房
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 以下の事項・作品・人物を順次とりあげる。 1、文字の使用とやまとことば、貴種流離の話 2、浄土教（源信と往生要集と地獄・極楽） 3、長谷詣でと観音信仰と女流文学者たち 4、幽玄（俊成と定家、中世の美的理念） 5、琵琶法師と旅、中世の語り物文芸 6、宗祇と連歌、そして俳諧へ 7、高野聖と語り物、かるかやの物語 8、平家物語と敦盛の最期 9、義経と静御前、軍記物語の系譜 10、言葉遊び（古代から近世まで） 11、旅と文学（古代から近世まで） 12、方丈のいおり、兼好の眼 13、キリシタン文学とイソップ物語 14、能・狂言（観阿弥と世阿弥・日本語の口語資料） 15、質疑応答（各自、自由に中世文学について発言し、大きな流れを把握する）		